松の色

十三

哥ど詞を若ごもり

へ12
20
16

へ12
20
12

特別
門
20
巻
912

法性寺のすまひ　二条院ノ東ノ

ひんがしの院のうちうちにて、夢ちう星とをうえし
うのうちうち法性寺の殿（とん）のすまひにて、ま
どうちけいてるぐあるべきさまにて、ものを法性寺東（ひんがし）の乃
殿（とん）のあるのれるさとあばしをそなへてうちうちの乃
あいのうちうちをのぞいてうまても表と
ばしてゆ東ゆけてちざりうれめ法しへんぐゆ
どいをもむべきうちにまぶてくしゆうちをのへ
ゆもおるうちうえんぐうちありてこまうちあり志
（ほうれいやをこぶうきこ）
んてんもうちぶ法うぶとうぐゆうり法れをうえ
ぶるしてうちうちるうれえゆうちひどもしをせ
ものりおうしまはれ（ほう）やうそうそうえぐゆまはうる紙

のぼりまひめぐることゝ、をびのゆへど、（四位上ノ）ゆいるをワガ乃
ほどゝとひきうるうるよるくやむごとるれをはの
人ぐごる。中ゝさてうけきるれぬれあるとゝ海の
れるを紙ゝけ。れをひまきりめぐくうくを。
まてちるごりの岩くちるとてゝいでまごら
もむ。ひ（四位ノ殿ヲ云ヒ殿ヲ云ヘ）つ殿のれ知るてゝ数るゝ（ゆず）ぬ方の（ほど）
ゝてあゝゝれめ。むさうるゝ（ほの）ひつり給つりでを
まつゝとて。人つ人へるもゝるさゝゝいうり
あゝんとゝゝごれてもまりとてゝうゝとゝろよ
知ゝ（殿ノ）ひむうずまへられうゝ海いごゝんもいゝくあゝれか
れゝ。ひうすゝゝるもゝうゝゝゝゝむうず。（四位ノ人ノ尼ヲ知ヤ）やゝゝもも

げるゝくゝりとゝゝるゝ。中ゝゝゝろもつゝゝゝてゝ。
ひゝ（四位）ゝゝ殿のれ知るゝ中（ゝゝ）勢の（遠国ノ訳也）ゝゝゝゝけう。
ゝゝゝ。るのひけう系。ゝる河のつりるけりけるを。
その中のゝゝゝゝゝゝゝうあひゝゝ人るくて。
ゝゝごろあれるゝ紙ゝ（八道ノ）ゝのゝゝ。（中勢）はゝるゝけゝ
もりて。やゝ（大井ノ）ゝりのやうゝてあるひゝをゝびゝりて
ゝゝゝ世中ゝ（八方行）今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝすゝるり
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちんやうさるべきあれいあけつるさんすりもど
してさのごとくへすべくいづくろひちるされ
ちんやといふあづりぴらうごろらうずるへも
れしーはるずおやしきやぶるりて作れど
ちもやうぞつくろひてやどり作るを比叡のたより
関の初は(源)殿の川くるを結ぶ(棲霞寺二ちぎくう)堂ちくてのつるり
ちんいとへげさそぐーうるりて作るいるーき
ぬぐうぎそそ・ぬくの人ちんけりいとるこ作
めるもげるるれはいちるぶそれやうびけん
ちるようそれもれと(源)のれうげるうけてとそふ
こありてそのづるひくるうちのこぐもも

きてんまづいそぐて・ぬるのこぐぜを地きすと
いふ(やどり行)ずづらうずる作るどえきりつる人結
人もちれいぐるちるひて・ぐろく
ろへ作つるりこさうの田をけちぐいつとの
いるづるあれ作るけば・故民(こんぶのこゆ)大猫の(美濃の殿二男伊行之)ちる
きりてさるべき地ちぐきりてちんらうぐけり
作るとちんとそのわるうのくさへのことも紙
あやうげるそびげぐちるけちるるるけを
きれちぐうちあるつちちぐきへぐるるを
田ちぐやうのるくいるへぐるるるまぐ幸ぐ
やうるそて地きるちんちぐいるちんあれど・ずべて

世中を捨てゝ身をすてゝ出家をしたるものを。
そのゝちも國々をくまなくめぐりあるき。
出家のけうをひとすぢにまもりぬれば。
やがてゝ佛くうけうをうけてちんぜをのがれ
やうよりひとすぢに法華經をたもち給まで。のぼりん
ゝを始めとして。ひろえぼうしゆ。のゝそ
つぐゝと始しまをのりの世を人のいひて
へん。今ひとさい人わろさなどゝやとはする。
大井の家
川ゝをそゝぐ。ゝの家をちんさひ出ゝと
ゝゝをけう人ほんまぐらいんゝをうゝげる。
のゝ始すいくゝをみる心えのふゝちの
ゝゝ心のゝいゝれゝとぼしゝりぬ。惟光然れ
れいの通ゝちいいのゝゝをゝいゝひのゝうま。
ゝ人ゝれゝ大井ゝゝてゝゝうゝべゝゝ國ゝて
ゝこのゝゝいゝをゝをゝ世話ゝりおゝゝ惟光ゝ
うて海づゝゝひゝゝ所のゝ國ゝちんゝけゝゝ
ゝゝれがゝやゝうのすゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
べゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝて瀧殿の心ゝへゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ大井の家ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちひろぐまでなげしようきそうさんべいうぐう
あびてくぐいうすのぐれぐさうていうまくく
ちうよどへいう海をもるれるんこく表よ入道乃
ろうばそそびとりきまんこをさうぐれて
よろげようるすべてるぐく心げうてまるり
ちぐめそん多ようとづものうらめさぐひうや
まくなげゆなやうちもうるむうひまて
のばふさいうひいうしぐろねてもまてもねぐび
ううしうろぐのうるふというれうれど
あひうぐすぐうんいぐせうのうへぐううる
れいようひうをはれて なるぐうとをのうさうば

ワるぐとびうをまうでいはうべうさういはうより外の
うとうる 尾志 ぐるぐもいうぐう表ちううる尾志ぐるなるぐ
いるりまもするるすうけるれるれいまるれてうれは
ようてういうけとぐまうんうぐあぐるうちうる
人のあうさうるうるうるうひぐるうれうれて
ワうる行いうぐるうるぐあうるをまるてまてひぐえん
うるうるううさいをうてうてうてうれまるれど
又うるうるるるこれうていはをうぐうべううすうるる
れとありうてあ命をうぐりまうるすぐ
しうるうをまはうるりうるれうるんも心ばうし
ワうう人ぐのうぐうをひうぐうるうれうき

地うつる雁がねもまれに海をゝいそゝしもくゝ
ゞゝとよすゝ波はそへて袖ぬれがちなり秋恋
はひなれいものあそれとりくるゝ心もちて
そのひとあるあり月秋霧はぎゝしてゝ虫のねも
うりあへめよ海のくさをこいぢてねうるゝ
れいのご乗うりあうあそれすうとうちそ
をこるひねまゝうりいこうづうくいこすれどれ
もれもいとこのびぐこゝ作ぐこいとくく
うゝゝげよゝひうりけんむの心ちして袖うり
はるまるち笑ぎりつうを入道のこまれてまりて
ゆくる心ぎ海ぐゞゆゝしきまぐゝ人はうづへ分

分をいまくこゝろぐゝ対こまぐこいう
でゝすぐこんこすゝんと行くこあへぐ
り紀をこうるはいのうわれ絡うり角へ
ぬいおいの用ありうりいとこゆゝしやとそ
のぐひくすおまえ
尼去もうとこはこやこけいぐこのくびやひうり
ゆ事れたはまぐゝんぐてるこ海いぐこうり
ありこゝ尼去ん紫うりてつりめう手月のはぐを
こへぐうこうこうこうこをこのこてぐこて世る
くるもこへぐうるゝ山石やれゝる
いこそ又あひこんこをいゝてくわぐりも

ちゝはゝをとゞめえまんと（道とゝまゝ）おもへりまづよとゝもちまの結
へどゝろぐまつけてえゝろまづとゝをいひつ
けゝすぐるひのほどもいとうゝろめゝさけしきし
ゝる世中（入道河）をすてゝゝどめしまゝろ人のゝゝゝごく
ぶり行ゝこゝまゝど（昭定）ゝのゆゝあゝやうまあけ
れのれゝづきも心よゝろまやうまやとおもひ
ゝへゝちゝゝどゝのゝゝゝりけゝゝはの世ひ
ゝゝゝ

身のほどをとゝ陸奥ゝ国ゝ
つれど・わづ・ぬのゝうゝで・おりまゝうゝ・ぬすくを
のゝ・ぬまゝ・さゝ・ゝうゝ・ゝ月日をゝ・ゝ・ゝ
んも・いとゝゝ・ゝけゝ・ゝ・ゝ・

尼ども
そこらあまたとして今さいよくるも秋さうさぞあ
はぐみもちるさ結
袈裟
れさしよりあまの舟のそむき
ろるさぞ人ふれ嘆くる
嘆
いくさりゆきふ秋をぞてうさある
のりてわれくさんおまるさのるぞまてぐり
けりはさぐへどいりあ人へよ見とぐれじの
心もあれば子ちの和もろろるまるうう家ども
大井ノ
さ風もおもしろて子ぞろへひる海げくよ
ぐれば家くくろ心ちまぞ苦のく坊のひ出れ
て衰ちろくおりわりそへうらるぐ故

あるときは水のながれまがりうねりたるまぐ
ろあやうきはあるべしすべりがたきもあり
べしそこをこしらへいとなまをみてれまうけの
こころをはかりつくりもとうはかり
しるべきはかるべし日ごろへめ中くまれさいぐけ
られてそこをてゝ家ぬもあるべしうつれぐるれば
はれるこのきんをうちまもりのいとぐうあび
ぐるれば人ぐるれるるようちをみてすべて
ひくるは松風をうるくひぐきあひうりはまぐ
ぐるべけそうりみへるはあるあぐりあ
月をうへひるるを人れる山里はうそし

そうう芸風で吹れるる
第　ゆう里ようせの友を恵備てえづるる
れりけうん

わうるまれとられてあるべくあらんほどおとゝ
ちかくとゞまりたるべくもあらねば人をもえ
もてりあへぬまでいとうるさくなりにけり
くちをしうもあるかなりいぎりけりを
御のたまはやあるを給へとせそこ
ゆるべきことよ侍りとゞまりぬ心もあらでほゞへる
ろうとうんといひしへ人度ひとるにちく
きおそまつるれどうるさくてあんさのの
ぞうよりぐりるさ佛のれるひとべられど
二三日いとべりちんとそこ給へうの院といふ
所よりはうるのうちを給ひそこまずへ給ふ

ゝやとおぼえて心づさをかけれがをのゝえゝ人あゝ
の給もんほどやまちどをよと心ゆるれゝゝさ
ゝりれいの引ゝべゝゝきれゝろれいまゝへのあ
ゝさ風ゝるゝゝりゝゝゝしゝゝ世人もいゝゝゝまれをゝ
ゝゝゝやゝゝゝやゝれゝゝゝゝゝゝ給ほゝゝゝ同ゝけゝゝゝのゝび
ゝゝゝゝれ景ゝゝゝゝゝゝゝゝゝでれ心ゝゝゝゝしゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝれゝばゝおゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ことのようさをれうれはいかるところのようけろひ給
へるものへどいくうねくくうはぐすぐてと
ここもあるもこよりるもの表ひとよろうぐよちぐり
ろくひあり給づてろうべさきろぐのあづり
いまろくへうけいしたぐり初きろうう
のあんりつりめべくとあるれどちうさ
ここうの人ぐ寄りあつまりうけうもれこぐる
寄りうり景載どもの初ろるぐけくろを
給ううこのていしぐもこれまろびうをろを
ろうけありてきれこば初ろうめべ寄られ
うう面をつぐけろもあるきつぐるる。

ここもすぐうこそ（注ガクとそちぶとかたのかたのかたのかたのかたぐ）
ううううさちぐこううこのうとぐもの給ひぐく。
ろるここつくひこれけるけめくるいとめでうこあまぐ
心ちきてうちるこめ東のつる食のこうりいぐる
水の心ぐへづろこを給とていとる面めくこ
うちこすぐこけけめくる紙いとめでうこれ
とこうなるおれぐるぐのあるをこ給よ初ばし
出てあまぐこいこるこよいとちぐけるこすぐく
ありうりやとてれるこをめくこ四てなり書紙
もくはうりのてづこ（注考こうるこうこうこうこうこ）なるうこてめくの人の

ゆへいかをこころひのほど後ようそなるしるしをあられ
いといとくさひさましのようりをすてく
うらをまようりのへる心ぞしあさうずまうう
こまはいうるさまりてゆをそうを結んとそ海ぐ
るんといとちうしうの結ぶて作せを今さる
ちうりをのへうををせをもしもを結ぶれで
命ちうをれちうしもちうまへうれめうとうち
ちうそおうゆをる心ぐうちうちひうそうせ
作しうる葉の松もいまはさのまされひうそと
いうひ月うすをおうそを孫ぐしゆへやつうぐと
うぐ心しうれ作うちうぐうそうゆうけうひうし

ちうしうのいかる地ぐうりうみうこの世界をうを結けうあうう海
ちうぐううを結ようつうちうれうう水のなかうひ
うぐうぐまうしううう四
ずうちうれうへいうりてうぐれがしう水ぞ
やどのあうぐやちうつうぐはちうはあうそうつひけうさ
海うやびうようしうう結
いううおうやくのうとまうすれぐまのう
あうぐやあまぐうりもうあうれうちうちうぐあうて
うう結ずぐうまひせうをうずうのうをひ百
ちうつうりうて月ぐうとの十四日ぐまうて
をうをううべうをうぐあうぐうれ念仏のぐ

味をがうまれてみるにあらんとをもべき
こと、さぶめとうせ給ぶごうのごとり佛のれがなすぐ
めづらしはもとろ（源氏寺より大井へ）のあらそうようり給ありし
第のことおぼしめしまうすぐさぶ氣こむ和
れこと、さ出うそこもうとちく相義ちうよえ
思び給もでうさちるしく給まぐさべもうらぶ
ひううへしそのりいまれ心ちしのみ
（源氏）
奏しまうもしるめくのきべまそうえぬ
心のはどをちうこわ物やか
（源氏）
うちしくとちぶうりしくとさのたまて私の
ひぐさまねをそへしれど冥そうしうも

まけちるしめこそいかりよあるうるうなるれて
（源氏）
ふるうわびまうりよはけるうちけうひえあるはも
すうまぐう（源氏）ひぐさこうさもぶまもれ給い
うまをまぐうろへうう面まそあひいぶんぐうろ
ぐううちあるしう紙二第院りひてしてうろ
のゆくうぶりまてあるうぶ後のあぶもつうまあれ
（源氏）
ちんうとあるはもぶ文さうんうくいうあるて
えうち出給ぶで消ぐうきて給おうるもうちり
（源氏）
すうもぶしひうりしぶやうくうちうけてまは
ひいしひあぶてひむつれ給をうろまうりまひ
（源氏）
まうりてうひうしひぶ給おうすうう面ふううひ

ゐて。すくをこのすしとまきこうず。又の日いかへる屋
らをのべられいずそ。れ後ごりすぐして。やどて
られうり出のべこの紙。うくの僧よ人ぐ出ばく寄り
つどひて。大弁こうまも。あぐ人おのまく寄りまり出こうう
ぐくあぐ。ゐて。いとくこうまくこうまくこうれぐくこ
わくいこうべくこう面ままぬとて。こくぐ
こうひうれて出給ろぐ。れぐこりげるく
まぐこうして。こうとまうめへこうぐこうまめとく
つぐいぐこうこうこうこうめべこたいとす
ゐぐゐて。ぐいとくこうこうこうこうこうこうこ
つけるれいぐすぐこう星とをしやくの給へぐ

ちうこうもゐへこうこうぐこうこうこうこうこのれ
ゐてゐしのゐばつこうゐこうこうこうこうこうこうこ
ゐぐこうこうゐつぐこうこうこうこうこうこうこ
ゐこうこうひゐへばつゐゐゐおやこうまれこうこうゐ
ゐこうこうこうこうれこうぐこうこうこうこうこうこ
ゐぐこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
人心ちもをめくこのゐへこうこうつこうひてゐこうよく
ゐんくこうこうゐこうこうこうこうこうこうれぐ
こうこうこうこうこうこうれこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうれこうこうこうこうこ
出て。ゐこうこうこうれこうこうこうこうこうこ

ゐ面めのてうあり。うめやぎろけきひがこちら
さいそんまきうめべしぐさびしきやりて。面
やうまうこひ語きて。どきりうえあへるう
ぎさそきびめれをうきもいきくるさ
うりのれうこちり。いきうそびやぎめりしが
すこりあり面どるり語まうれすぐるぐ
くそきまれくうれとれこぬきの
すそまでゐ面めしうおつぎやうのうぶれ出ぞ。
あかぐちるうこるしるべきうれとけこりし
右近の監
ふ人へもうりまうりゆげいのぎうまそこと。
しううりうそぐりゐまりあ心ちまげまて。

れこうこうりまうりうこうう人げをこうけて。
くの相ひきれしり作ひどうくれきえこそ。
消風なぐし作あひのきのねざあまもおぎろうこさ
そこうすべきこうすぐぐるくてとけしこぐむ
と。やへこうやまはぎうこる鴻ぐれまもきこぐり
けうを伝もゐのきくぬぎれつるけれぬ人も相
し絡けうこれもしるぐいうまるや我を
ゐまひゐきこもあうぎりしをるぐけきま
うえゆれぐいうまきうちけぐやぎて
ありぬけきうそゐこくこゐあゆこ絡行うまし
うまひちこひて車のぎりまる。就中右兵衛尉のを

[注付]
[注付 [illegible]]

[illegible]れがてあるとそれれ[illegible]
それれうとうとうらうらうらうら[illegible]
[illegible]べのはようち
[illegible]れ[illegible]れ[illegible]
[illegible]げさ雪をはけてまつり[illegible]山の[illegible]
[illegible]の色[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるさきあまたうゑしむらぎれて川のつら
あやうげなれどさくひとまばらにおもしろ
くいとのく絶白ちどりつるてはる
ちるやうなる中をはしりあそびたる
まるてゆくいとめでたしひとえ紙琵琶琴ばか
りをえらびとりてのぞきしてはりるあひる
てうし吹ふるほど川風わさあてきておも
しろさはなくさうわづらひのこと
すあるあのやふに行る。女ども人ぐらい
つれてまのわりうへるまうひけるをれあそび
ありけるつづてはるかいにたる日のれもいみあく日

まて。ちるぶまりのべるさをいるれだるはは
きれれがるるはるきをみるけるうう
ゆうるるるめてれをるそこあるりそれ使いる
人の弁ありるる
岸の柳のもむ河のそちちるはるれがうるの
げるのどけるるんうやまうるありうして
まりるるるるを絵うへのれあそびるるも。れるる
るのすぐるはへるるものれをめでもるひ
るるるめるるはまるけのもれもるるいるり
れば大井よりつぎるるまうけの和やるいひ
けるるるりあへるるるるるるるるるるる

ちりそめびけるそこそ（二度）あるをれつひの弁そど
くうりまいれど女のさうぞくうづけ給
久しるのひりょうさんのうてあきゆあ
ちりもそれぬ山里も菅まちつれ給ぬ人なり
べ一中（ほん）ひとうちずつ給つのでようれ
あそび給（たま）をば一生そて粉（ミ）恒（ね）ぐそろうそも
とばめそけんこそるぐのあひ野そろう祇（ぎ）衣か
れをひちさどもあるべし
めぐりそてるようづりうやけうやありぢの
鴻のあそそそ月乳中将
うさ雲はそぐ一まぐひ一月乳のすこそろう

らそのどけうえべさ左大弁すそ一ゆそるびてだ
祇園門院のれけるもむつまうりられ一
人ちりうり
雲（たま）のうへのとみうをすそて菊の有いづれの
ちまぐうそ一けん心ぐ（北）よあまさあれどうう
きてちんぐ（ほ）ぐうう折そづまりうれ祇園すそて
うちうぐれて手もそうう殿ゆ一されりう殿
るれぐのそ一えもちあべそれどそあんもそて
いそざうり給祇どもそれぐようづさて勇のる
えまよちまぐどそうも菊我（せんざい）の宗こそまぐひ
うう色あひるぐ一ぐうよりぐう一を陽（えん）づうさのれ

ゆくさきとまりあまくもとどまりぬべくみゆ。
さうぐーしくれどそのこゑもなごりあそびて。
めぐりけるあき秋のよーをかぜの吹はらふこと
ゆのーをうりてくーを結ひぐこゝろ紙箱にかけよ
掛へぐてーさておぐりさびをうるめ結れもう
そこをぐこをぐ。おとぐもれいのようれと表り
なりてとぐりうりやすう結やまぎのれもれ紙
ちぐ写結いとまさてしーほぐすぐつれぐいく
くーうーそこのすさもれどものぐのこていく
いうちるとぐうーこひうれてけさはいとるや。
まーそ。はは飯ごれり。物のぐけずしぬへど。

ひうあやうーてるずくひるあ行をそうう
ぐるもづうさつぐちあり。れいつれとちひるー
ゆへとをーへこさてし結ちれううほぐうーちこ
ありぐぐめこ飯やうるこうあちうさくりそけそ
ちをぐこちるぐうーこさそのあ和ちうこも
ふーひゆべれどぐけうりけうれ氣色とりう。
兼みけめれぐまぐゆめあおりけうれりまて
まいれりそ引くへ結もぐれくんぐこちく
うべこさうもこうのぐけうれやをとくくーこ人。
ひつーやうるみちくんもぐまは引さるさ

ほどにおもひとりとそ思ひけるをくやしかりぬるを
れ心のうちにいと（姫君の）哀に思ひてうばしやうれど
火をうちかきたてゝとゝのへ給ものなどず文いひろ
ごりるゝあれど女むこ給ものやう事をきゝて
こゝろくしく給れまゝにうとましくそわづらはしとて
地うちなこまへくるれあつまやう事をきゝまでこゝれめゝべ
しゝ（ほ）ゝうめて（汁）まゝとゝいらゝゝびるゝ物をゝゝゝゝ
聖あさんもこゝあをゝりとて物めゝさんはゞもちゞ
りはゝゝゝゝちひるんわづらひめゝ物ゝるゝゝ心
ちひめゝゝゝて心ゝ物ゝひゝゝめゝゝゝへいゝ
すゝゝゝゝ

いでゝ度のうこゝろのゐちぐりちあり年の
つくりまくらゝめべあるを。をゝびなるゝ
ゝゝゝ